

騒音〃低め〃評価

基地周辺、平均15ポイント減

新基準「エルデン」適用

2013年度から環境省が導入した航空機騒音新基準エルデン（時間帯補正等価騒音レベル、Lden）を適用し、沖縄防衛局が米軍基地周辺の住宅防音工事区域見直しに伴う調査の検討を始めた。エルデンは従来のうるささ指数（WECPNL、W値）と比べて計算式上、平均で13ポイント低く設定される。13年4月以降、県が米軍基地周辺でエルデンを用いて計測した結果ではW値に比べると平均で15ポイント、宜野湾市上大謝名では約20ポイント低く評価される傾向にあることが分かった。

計測結果が出た。上大謝名公民館では13年4月、W値86ポイントに対し、エルデンは64ポイントを測定、22ポイントの差があった。

エルデン、W値の両指標を用いて米軍航空機騒音を計測する琉球大学工学部の渡嘉敷健准教授も「エルデンは（W値と比べ）平均13ポイントより下回る傾向にある」と指摘し、別の課題を挙げる。両指標も米軍特有のヘリ運用に伴う低周波音を前提としない数値のため、県民の騒音実感を計測するには限界があるという点だ。

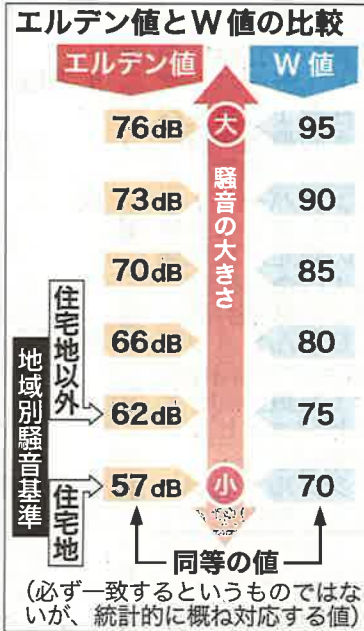
ジェット機など固定翼機のみを前提としたエルデンやW値といった基準を、軍用飛行場にそのまま当てはめることは、県環境保全課も「なじまない」と捉える。

渡嘉敷氏は、両指標による騒音計測と併せ、低周波音調査や、耳鳴りや不安感を生じさせる騒音についての住民聞き取り調査を、県や国が十分に実施する必要性を説く。県に対してはさらに、騒音速報値の即日公開、騒音を規制する県条例の制定といった具体的で積極的な取り組みを求める。防音工事のあり方の柔軟な再検討を提起した上で「調査結果を逐一情報公開し、騒音の改善がどうつながるか」という県や国の姿勢が大切だ」と強調した。（石井恭子）

追跡 2014

県環境保全課は「騒音は変わらないのに、改善されたと評価されかねない。住民も理解できないものではない」とし、見直しに伴う指定区域減少などがないよう、国の慎重な検討を求める。

エルデンによる地域別基準は住宅地で57ポイント（W値70ポイント）、それ以外で62ポイント（W値75ポイント）となった。13年4月から今年2月までの県調査（嘉手納基地周辺12局）では、例えば13年6月に北谷町上勢公民館でエルデン54ポイント（W値72ポイント）、沖縄市立北美小でエルデン56ポイント（W値71ポイント）という結果がある。いずれもW値から13ポイント超下回り、W値であれば環境基準を超過するが、エルデンでは基準内に収まるという



「不適に計測へり」 識者や県